

銅雀台(注) 址ち 頽たう無む遺い 何なに乃の剩じやう瓦が多た如ごと斯す  
 文士ぶんし 例れい有あ好こう奇き癖へき 心こころ知し其その妄まが姑こ自みづか

(紀昀『閱微草堂筆記』による)

(注)  
 銅雀台——魏の曹操が築いた展望台。この建物の瓦を用いて作った硯がもてはやされた。

問

傍線部Aについて、(i)空欄に入る語、(ii)その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

- (i)
- ① 愉 ② 娯 ③ 詐 ④ 欺 ⑤ 虚

- (ii)
- ① とりあえず自分の心をごまかすのである。  
 ② そのうちに自然と愛着がわいてくるのである。  
 ③ やがて自分も他人をだますのである。  
 ④ 時とともに自然と執着心がなくなるのである。  
 ⑤ ともかく自分の趣味を楽しむのである。

解 答	
(ii)	(i)

放鷹はなつたか

白居易はくきよ

- |  |  |
|--|--|
| ① 十月鷹出籠 <small>かご</small>                        | ② 草枯雉兔肥 <small>ちと</small>                    |
| ③ 下鞬 <small>（注1）</small> 隨指顧 <small>（注2）</small> | ④ 百擲 <small>（注3）</small> 無一 <small>A</small> |
| ⑤ 鷹翅疾如風 <small>はやきよと</small>                     | ⑥ 鷹爪利如錐 <small>つめするときよと</small>              |
| ⑦ 本為鳥所設 <small>なり</small>                        | ⑧ 今為人所資 <small>ニル</small>                    |
| ⑨ 孰能使之然 <small>カクニテ</small>                      | ⑩ 有術甚易知 <small>アリ</small>                    |
| ⑪ 取其向背性 <small>ニ</small>                         | ⑫ 制在飢飽時 <small>スルハ</small>                   |
| ⑬ 不可使長飽 <small>カラ</small>                        | ⑭ 不可使長飢 <small>カラ</small>                    |
| ⑮ 飢則力不足 <small>ウレバチ</small>                      | ⑯ 飽則背人飛 <small>ケズチ</small>                   |
| ⑰ 乘飢縱搏擊 <small>（注4）</small>                      | ⑱ 未飽須繫維 <small>（注5）</small>                  |
| ⑲ 所以爪翅功 <small>ゆゑニ</small>                       | ⑳ 而人坐収之 <small>オシテ</small>                   |
| ㉑ 聖明馭英雄 <small>ぎよスル</small>                      | ㉒ 其術亦如斯 <small>また</small>                    |
| ㉓ 鄙語不可棄 <small>ヒ</small>                         | ㉔ 吾聞諸獵師 <small>ケリ</small>                    |

（『白香山詩集』による）

（注）

- 1 鞬——鷹を止まらせるために腕につける革具。
- 2 指顧——指さし顧みること。指示。
- 3 擲——投げ放つ。
- 4 搏擊——襲いかかる。
- 5 繫維——つなぐ。

問

空欄 

A
---

に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ⑤ ④ ③ ② ①  
失 至 敗 遺 中

---

解 答

--